

第63回 大阪中学校 選手権大会

決勝リーグ

【女子】

| 決勝リーグ | 取石 | 豊中二 | 長栄 | 樟蔭東 | 勝敗 | 順位 | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|----|-------|
| 取石 | | 4 1 ○ 3 3 | 3 2 ● 6 5 | 3 7 ● 7 2 | 1勝2敗 | 3 | |
| 豊中二 | 3 3 ● 4 1 | | 3 3 ● 6 7 | 4 6 ● 7 3 | 3敗 | 4 | |
| 長栄 | 6 5 ○ 3 2 | 6 7 ○ 3 3 | | 5 2 ● 9 0 | 2勝1敗 | 2 | 近畿大会へ |
| 樟蔭東 | 7 2 ○ 3 7 | 7 3 ○ 4 6 | 9 0 ○ 5 2 | | 3勝 | 1 | 近畿大会へ |

【男子】

| 決勝リーグ | 堀江 | 友渕 | 豊中二 | 長尾西 | 勝敗 | 順位 | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|----|-------|
| 堀江 | | 5 2 ○ 5 0 | 7 5 ○ 5 7 | 6 6 ○ 6 2 | 3勝 | 1 | 近畿大会へ |
| 友渕 | 5 0 ● 5 2 | | 7 3 ○ 4 3 | 4 4 ● 6 1 | 1勝2敗 | 3 | |
| 豊中二 | 5 7 ● 7 5 | 4 3 ● 7 3 | | 3 7 ● 7 2 | 3敗 | 4 | |
| 長尾西 | 6 2 ● 6 6 | 6 1 ○ 4 4 | 7 2 ○ 3 7 | | 2勝1敗 | 2 | 近畿大会へ |

以下に戦評

決勝リーグ

7 / 28

第1試合

女子イ

取石 41 $\left(\begin{array}{l} 11-08 \\ 10-04 \\ 14-07 \\ 06-14 \end{array} \right)$ 33 豊中二

取石④⑤⑥⑦⑨オールコートマンツーマン、豊中二④⑤⑦⑧⑩ハーフコートマンツーマンでスタート。取石⑦のドライブで口火を切る。豊中二は④が3Pを入れ対抗する。両者ともに硬さが見られる中、取石④⑨のドライブ、豊中二⑦のドライブが決まり、一進一退の攻防が続く。第1Q終盤で取石⑤の3P、⑨のドライブが決まり、11-8と取石リードで第1Qを終える。

第2Qに入ると、取石のディフェンスが厳しさを増し、豊中二は、なかなか効果的に攻められない。取石は④⑦を中心に着実に得点を重ね、リードを広げる。しかし、第2Q中盤から取石にファウルが増え、交代せざるを得ない展開になった。21-12と取石がリードして前半が終了した。

後半から豊中二は流れをかえようと2-1-2ゾーンディフェンスに変化させるものの、取石は落ち着いたパス回しから④⑦の3P、⑥のポストプレイで主導権を譲らない。35-19で第3Qを終える。

第4Qに入り、豊中二はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、取石のリズムを狂わせる。ボールを奪ってからの連続得点で、点差を徐々に縮めていく。しかし、豊中二の逆襲も1歩およばず、終始落ち着いた試合運びを見せた取石が41-33で勝利を得た。

女子ロ

長栄 52 $\left(\begin{array}{l} 08-23 \\ 09-17 \\ 16-24 \\ 19-16 \end{array} \right)$ 90 樟蔭東

長栄④⑤⑥⑦⑧マッチアップゾーン、樟蔭東④⑦⑨⑬⑯マンツーマンでスタート。

立ち上がり樟蔭東⑯の2連続3Pでゲームが動き出す。互いに手の内を知り尽くした同地区での対戦。長栄は樟蔭東のディフェンスをボール運びから崩し、高さを生かした攻撃に持ち込みたいが、樟蔭東の粘り強い読みのよいディフェンスにリズムを作れず第1Qから攻守に圧倒され前半50-17、樟蔭東リードで終了。

後半に入り、樟蔭東は④のジャンプシュート、⑬の3Pなど、攻撃の手をゆるめない。対する長栄も⑧のブロックショットからの速攻で④が決め、ディフェンスも終始オールコートでプレッシャーをかけ、素早い切り返しから⑥⑧の連続得点、④のカウント1スローなど、好プレイで対抗する。

点差は開いたものの、最後まで、オールコートでプレッシャーをかけ続け、50点を取る攻撃力は目を見張るものがあった。

樟蔭東はオールコートプレッシャーディフェンスからの素早い展開でどこからでも得点のとれる攻撃がすばらしかった。

両チーム、残り2ゲーム。力を出し尽くすことを期待します。

第2試合

男子イ

| | | | | | | |
|----|----|---|----------------------------------|---|----|------|
| 堀江 | 52 | { | 06-19 17-08 16-07 13-16 | } | 50 | 友 渕 |
|----|----|---|----------------------------------|---|----|------|

堀江④⑤⑥⑦⑧、友渕④⑤⑥⑪⑫、両チームともマンツーマン。開始早々から友渕⑤が2本連続して3Pシュートを決め、ゲームをリードする。1Q堀江はオフェンスに苦しむものの2Qに入ると速攻が出始め、前半終了時には4点差まで堀江が追いつく。

23-27と友渕が4点リードで始まった後半、両チームのエースが力を発揮する。友渕⑥がジャンプシュートを決めると堀江④も4連続ゴールを決め、3Qで逆転し、このゲーム初めて堀江がリードする。

4Qでも両エースが活躍し、友渕⑥、堀江④がゴール下で奮闘する。残り3分で堀江⑤のドライブが効果的に3本決まると、友渕⑤も外角のシュートを決めて応戦する。最後は友渕⑥がリバウンドシュートをバスケットカウントで決め、2点差まで詰め寄るも堀江が逃げ切り、近畿大会へ向け、大きな一勝を手にした。

男子ロ

| | | | | | | |
|-----|----|---|----------------------------------|---|----|-----|
| 豊中二 | 37 | { | 10-14 02-17 15-14 10-17 | } | 72 | 長尾西 |
|-----|----|---|----------------------------------|---|----|-----|

1Q、豊中二④⑤⑥⑦⑧、長尾西④⑤⑥⑦⑫、両者ともハーフコートマンツーマンでスタート。出だしはどちらも硬さが見られたが長尾西⑤の3P、スチールからの速攻で⑦が決め、長尾西が先制する。それに対し豊中二は、④、⑥の1on1で、得点し、得点後はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、一進一退の攻防が続く。

2Qに入り、長尾西は⑥がドライブ、パスでディフェンスを切り崩し、シュートチャンスを生み出し、それに対し豊中二はファウルを重ねてしまう。長尾西は着実に得点をし、ディフェンスでも堅い守りを続け、豊中二は思うように攻められず、得点が伸びなかった。

3Qに入っても長尾西の勢いは衰えず、⑥の速いボール運びから、④のゴール下、⑤のステップインなどで、得点を重ねる。それに対し、豊中二も④のバックシュートを皮切りにリズムを取り戻し、⑨⑧のミドルシュートが決まり、オールコートのディフェンスもがんばるが点差はなかなか縮まらない。

4Q、豊中二は必死に食らいつくが、流れは変わらず37-72でタイムアップ。長尾西は堅実なプレイでリーグ戦一勝目を手にした。

決勝リーグ

7 / 29

第1試合

女子

取石 32 $\left(\begin{array}{c} 10-10 \\ 02-23 \\ 03-12 \\ 17-20 \end{array} \right)$ 65 長栄

取石④⑤⑥⑦⑨、長栄④⑤⑥⑦⑧でスタート。どちらもオールコートのマンツーマン。初めはどちらも硬さが見え、シュートがエアになるミスなど点が入らない状態が2分間ほど続く。取石⑦のドライブシュートをきっかけに両チームの動きがよくなり、取石⑥のステップインシュート、長栄④のリバウンドからのシュートなどで、1Qは10-10同点で終わる。

2Qに入り、長栄のオールコートディフェンスに取石が苦しみ、ミスが続く、長栄の攻めがリズムに乗り出す。その後、長栄は④の力強いポストプレイ、⑧のシュートチェックなど、高さを生かして得点を重ね、33-12で前半終了。

後半も、出だし、長栄の④⑧のシュートにより、点差を広げ、取石は攻めることができない。4分間ノーゴールの取石はタイムアウトを取り、④3Pを決めるが、長栄の勢いを止めることができず、45-15で3Q終了。

4Q、取石は⑦ステップインシュートなどで追い上げを図るが、高さで勝る長栄の勢いは止まらず、65-32で試合終了。取石は粘り強いディフェンスで健闘したが、長栄の高さとスピードに及ばなかった。

女子

豊中二 46 $\left(\begin{array}{c} 14-24 \\ 09-25 \\ 12-16 \\ 11-08 \end{array} \right)$ 73 樟蔭東

豊中二④⑤⑦⑧⑩ハーフコートマンツーマン、樟蔭東④⑦⑩⑭⑱オールコートマンツーマンでスタート。

まず、樟蔭東が⑩のレイアップシュートで先制、豊中二も⑤のドライブがファウルを誘い、フリースローで得点。その後一進一退の攻防が続き、残り4分樟蔭東がタイムアウト。その後、樟蔭東⑱の連続ゴールでリードを奪う。豊中二も⑦の3Pで応戦し、24-14、樟蔭東リードで1Q終了。

2Q、樟蔭東④のターンシュートで先制、豊中二は⑩のセンターの1対1で応戦するが、樟蔭東⑱⑱⑱の3Pで得点され、苦しみ、豊中二がタイムアウトを取る。その後も樟蔭東は3Pや速攻で得点を重ね、49-23、樟蔭東が大きくリードを奪い、前半を終了。

3Q、互いに試合開始と同じメンバーでスタート。まず、樟蔭東が⑩の速攻で先制、その後、樟蔭東④が連続ターンオーバーを奪い、リズムをつかみ、⑱の3Pなどで、リードを広げる。対して、豊中二も④の3Pや⑤⑧の1対1からの得点などで、食い下がって行き、65-35で3Q終了。

4Q、樟蔭東の交代で入った⑱が3Pで先制、対し、豊中二は⑨のジャンプシュートで応戦し、何とか追い上げようとするが、前半の点差を埋めることができず、樟蔭東が73-46で決勝リーグ二勝目をあげた。

第2試合

男子

| | | | | |
|------|-----|--|-----|-----|
| 友 渕 | 4 4 | $\left(\begin{array}{c} 09-13 \\ 10-17 \\ 14-09 \\ 11-22 \end{array} \right)$ | 6 1 | 長尾西 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

友渕④⑤⑥⑪⑫、長尾西④⑤⑥⑦⑫でスタート。お互いハーフマンツーマン。友渕は⑤のドライブ、⑥の1 on 1からのミドルシュート。長尾西は④のポストプレイ、⑤⑥のドライブなどを試みるが、堅いディフェンスでお互い思うように得点につながらない。長尾西は⑤のポストプレイ、⑦の3Pが決まり、リードして試合を優位に進める。友渕もインサイドアウトやドライブからの合わせでシュートを放つも思うように決まらず、前半30-19で長尾西がリード。

後半に入り、白は3-2のゾーンディフェンスで打開を図る。ゾーンが機能し、⑤の連続シュートが決まり、点差は3点に。この苦しい状況で長尾西はオフェンスリバウンドをものにし、相手に傾きかけた流れを食い止める。3Qを33-39で終了。

何とか先手を取りたい放出を4Qの出だしで、⑥が4つ目のファウル犯し、たまたまタイムアウト。ここで、長尾西がゾーンプレスを仕掛け、一気に勝負を決めにかかる。あわてる友渕はシュートがずれてしまい、逆に長尾西の積極的な1 on 1が機能しだす。残分3で、友渕もプレスを仕掛けるが、ここで、⑥が5つ目のファウルで退場。その後も、長尾西がメンバーを変えつつも、点差を広げ、44-61で長尾西が勝利。3年連続の近畿大会に大きく近づいた。

男子

| | | | | |
|------|-----|--|-----|-----|
| 堀 江 | 7 5 | $\left(\begin{array}{c} 16-10 \\ 17-06 \\ 19-16 \\ 23-25 \end{array} \right)$ | 5 7 | 豊中二 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

前日、大接戦で勝利した堀江と1敗の豊中二との決勝リーグ2戦目。

堀江④⑤⑥⑦⑧、豊中二④⑤⑥⑦⑧で両チームマンツーマンでスタート。

開始早々、堀江はエンドスローインの合わせで2連続ゴールし、リズムをつかむ。また、④のインサイドを軸に⑤のミドルシュート、⑦のゴール下や3Pシュートで点を取る。一方、豊中二は⑥の力強いプレイを軸に速いパス回しから④の速攻などで、点を取り、第1Q、16-10堀江リードで終了。

2Q、試合が動き出す。堀江はディフェンスを3クォーターからの1-2-2にし、豊中二のオフェンスのリズムを崩し出す。そして、④のミドルシュートやポストからの1 on 1、⑤のゴール下シュート、⑨の速攻などで点差を広げ始め、33-16堀江リードで終了する。

3Q、リードされている豊中二は、④の力あふれるプレイが連続し、ゴール下や速攻、リバウンドシュートで追いつこうとする。ディフェンスも2-1-2のゾーンに変えるが、堀江は④の1 on 1や⑤のバスケットカウントでしのぎ、点差が縮まらず終了する。

4Q、出だしから豊中二はオールコートで激しくプレッシャーをかけ始め、④を中心に点差を詰めていき、残り2分で8点差まで、追い込んだが、堀江はしっかりとボールをコントロールし、結局75-57で、最終試合を残し、長尾西とともに、近畿大会出場を決めた。

第3試合

女子

| | | | | | | | |
|-------|---|---|-------|-------|-------|-------|--------|
| 長栄 67 | } | <table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 0 5px;">19-06</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">18-08</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">16-05</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">14-14</td></tr> </table> | 19-06 | 18-08 | 16-05 | 14-14 | 33 豊中二 |
| 19-06 | | | | | | | |
| 18-08 | | | | | | | |
| 16-05 | | | | | | | |
| 14-14 | | | | | | | |

長栄④⑤⑥⑦⑧、豊中二④⑤⑦⑧⑩でスタート。

豊中二、ハーフマンツーマン、長栄はオールコートのチェンジングのディフェンスで動き出す。両者、硬い立ち上がりで、開始4分、6-6となったところで、長栄がタイムアウトを請求・タイムアウト後、長栄はリズムをつかみ、また、長身の⑧を中心にインサイドで確実に得点を重ね、1Qを19-6で終了。

2Q、長栄は⑧→④のハイロープレーで得点をあげ、21-6、その後も長栄は④⑤⑧のゴール下のプレイで確実に得点を重ねる。一方、豊中二も⑩のジャンプシュートで対抗するも、なかなか得点が伸びず、前半を37-14で終了。

3Q、長栄④⑤⑥⑦⑧、豊中二④⑤⑦⑧⑩でスタート。開始早々、長栄⑧の連続ポイントやフリースローで43-14とリードを広げる。さらに、⑤⑧のゴール下、④の速攻で、12連続得点で49-14と長栄が主導権を握る。豊中二はこのクォーターもリズムをつかめず、3Q、53-19と長栄リードで終了。

4Q、長栄⑨⑩⑪⑫⑬、豊中二④⑤⑦⑧⑩でスタート。豊中二⑧3Pで試合が動く、さらに、⑦のドライブがバスケットカウントになり、フリースローも決まり、25-53と追い上げる。その後、両者、得点を取り合い、長栄が67-33で勝利し、近畿大会への切符を手に入れた。近畿大会での活躍を期待する。

女子

| | | | | | | | |
|--------|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 樟蔭東 72 | } | <table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 0 5px;">12-10</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">25-02</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">18-10</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">17-15</td></tr> </table> | 12-10 | 25-02 | 18-10 | 17-15 | 37 取石 |
| 12-10 | | | | | | | |
| 25-02 | | | | | | | |
| 18-10 | | | | | | | |
| 17-15 | | | | | | | |

樟蔭東④⑦⑩⑭⑱オールコートマンツーマン、取石④⑤⑥⑦⑨オールコートマンツーマンでスタート。

取石が⑦のフリースローで先制。すかさず樟蔭東⑩のコーナーからのミドルシュートで2-1。取石⑥ハイポストからのターンシュートで応戦。勝手の違う樟蔭東がタイムアウト。樟蔭東はオールコートでのプレッシャーからの速攻等で加点するが、取石の堅い守りを崩せず、取石⑦の果敢な1on1等でファウルを稼ぎ、食らいつく。1Q終わって12-10とわずか1ゴール樟蔭東のリード。

2Q、徐々に樟蔭東のプレッシャーがきき始め、ボール奪取から着々と加点。速攻、3Pなどで点差を広げていく。取石は⑦以外に攻め手が無く、2Qはわずか2点にとどまる。2Q終了時点で37-12と25点差がつく。

後半、1Qと同じメンバーでスタート。何とか意地を見せたい取石は⑥のポストシュート、⑦の1on1で立ち上がり7点を奪取。早めのタイムアウトで流れを断ち切りたい樟蔭東は持ち前の足を生かしたすばらしい仕掛けで、ボールを奪い、追撃を許さず、ターンオーバーを取り、連続3Pで差を広げる。3Q終わって55-22と30点以上の差に。

4Q、必死で反撃を試みる取石は⑦の連続3Pが決まるが、ここでも樟蔭東はタイムアウト。相手を乗せない的確なベンチワークが光る。⑦を中心に最後まであきらめずに戦った取石だったが、72-37で樟蔭東の勝利。この試合はややファウルの多さが目立ちリズムに乗りきれない感もあったが、順当に優勝。近畿、全国へ向けての活躍を期待したい。敗れはしたが、大会を通じて堅い守りで健闘した取石も称えたいと思う。

第4試合

男子

| | | | | | |
|-----|----|---|----------------------------------|----|------|
| 豊中二 | 43 | { | 12-18 14-26 06-17 11-12 | 73 | 友 渕 |
|-----|----|---|----------------------------------|----|------|

1Q、豊中二④⑤⑥⑦⑧、友渕④⑤⑥⑪⑫、両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。

豊中二はスクリーンプレイを多用し、オフェンスを仕掛けるも、ターンオーバーが続き、得点につながらない。一方友渕も立ち上がりこそシュートが入らずにいたが、⑫の速攻、1on1と連続得点し、リズムをつかむ。対して、豊中二は⑤⑥の合わせのプレイやピック&ロールなどチームオフェンスを加点する。友渕は④の連続3Pで突き放し、12-18と友渕のリードで1Q終了。

2Qも同じスタート、出だし友渕が連続シュートを決め、リズムよく攻めだし、⑤から⑪への合わせ、⑫の速攻、④⑤の3Pなど多彩な攻撃を仕掛ける。対して、豊中二はバックドアップレイなどのセットオフェンスや④⑨の3Pシュートで追いかけるも流れは切れず、26-44と友渕リードで前半終了。

3Q、友渕は⑥⑤を中心に攻め、徐々にディフェンスも強く当たり出し、豊中二のターンオーバーを誘い、速攻から着実に加点し、豊中二たまたまタイムアウト。しかし、流れは変わらず、32-61の友渕のリードで終わる。

4Q、豊中二はオールコートディフェンスを仕掛け、得点差を詰めようと試みるも友渕は落ち着いて、ボールを展開し、ゲームをコントロールする。豊中二は⑤の3P、ミドルシュートや④の1on1で果敢に攻めるも友渕の安定したゲームコントロールに阻まれ、流れを作れない。友渕⑥の安定したリバウンドが終始光り、43-73で試合終了。友渕が勝利を収めた。

男子

| | | | | | |
|-----|----|---|----------------------------------|----|------|
| 長尾西 | 62 | { | 12-14 17-20 14-20 19-12 | 66 | 堀 江 |
|-----|----|---|----------------------------------|----|------|

長尾西④⑤⑥⑦⑫、堀江④⑤⑥⑦⑧でスタート。

長尾西④の力強い1on1で先制。堀江は⑥のミドルで応戦。お互いにディフェンスで粘り、点数が伸びないが、堀江④のパワープレイや速攻でリードを奪うが長尾西も⑫がゴール下で加点し、1Qは一進一退。

2Q、堀江が④の1on1、⑤のバスケットカウントからディフェンスで激しくプレッシャーをかけ、リズムをつかみ、④の3Pでリードを広げる。10点差から長尾西は④のパワープレイや⑥の速攻で応戦。しかし、堀江は④のハイポストからのシュートやゴール下で、長尾西を追いつかせない。前半34-29で堀江リード。

3Q、長尾西⑤のミドルシュート、⑪のレイアップで好スタート。しかし、堀江は④のリバウンドシュート、パワープレイで突き放しにかかり、④と⑤のパワーレーンでのコンビプレイ、⑦の3Pで10点差とする。3Pで54-43と堀江リードで終える。

4Q、長尾西④を投入、⑤のミドルシュート、3Pで追撃、しかし、長尾西はファウルをもらうが、フリースローがなかなか決まらない。残分5からフルコートで仕掛けにかかり、⑤の3Pが決まったところで、堀江タイムアウト。直後、長尾西⑫のドライブで5点差。この場面で、堀江⑤がレイアップを決める。長尾西は⑤のミドルからのディフェンスで仕掛けにかかるが、堀江は乱れない。しかし、長尾西は⑩がフリースローを決め、残り18秒で3点差。その後、堀江④がフリースローを決めて、スローインからのボールコントロールをしっかり行い、3年ぶりで優勝を飾った。